

第3回 かながわ気候市民会議 in 逗子・葉山 会議録

■ 日時・場所

日時: 2023年9月23日(土)13:00~17:00

場所: 逗子市役所 5階会議室1

■ 出席者

参加者: 29名(欠席14名)(グループ1~3、5~7の6グループを編成)

運営者: 逗子市市長 桐ヶ谷覚氏

逗子市環境都市部次長 青柳大典氏

一般社団法人環境政策対話研究所 柳下正治

専門家: 渡部厚志(地球環境戦略研究機関)

司会(全体ファシリテーター): 村上千里(一般社団法人環境政策対話研究所)

■ 当日資料

当日進行用資料 「かながわ気候市民会議 in 逗子・葉山(第3回)」(投影のみ)

レクチャー資料 「かながわ気候市民会議 in 逗子・葉山 第2回のお話し合いと脱炭素ライフスタイルチャレンジ(1)」

参考資料1 「第2回市民会議で出た意見と脱炭素ライフスタイルチャレンジの感想」

参考資料2 「逗子葉山チャレンジ『チャレンジした行動』」

参考資料3 「第3回グループワーク2参考資料「意見が分かれた／難しかった行動」」

参考資料4 「逗子葉山チャレンジ振り返り「地域や暮らしをより良くする行動」」

■ 市民会議の概要

1. 開会挨拶とオリエンテーション

かながわ気候市民会議の開催地である逗子市市長の桐ヶ谷覚氏より開会挨拶があった。さらに逗子市環境都市部次長青柳氏より、自宅の電力消費を確認する方法が紹介された。続いて全体ファシリテーターである環境政策対話研究所の村上千里氏より、第2回市民会議のアンケート結果の共有による振り返りが行われた。その後、第2回会議の目標「チャレンジして考えたことの共有、議論したいテーマ・課題の絞り込み」が説明された。その後、グループごとに自己紹介が行われ、参加者間で「夏に脱炭素チャレンジで印象に残ったこと」を共有した。

2. 情報提供1 「前回の議論と脱炭素ライフスタイルチャレンジのふりかえり①」(渡部厚志氏)

地球環境戦略研究機関の渡部厚志氏より、気候変動と脱炭素化を大きな視点で学んだ第1回、暮らしの中で脱炭素ライフスタイルチャレンジに挑戦した第2回など、前回までの内容の振り返りが行われた。全参加者46名のうち、脱炭素ライフスタイルチャレンジの「行動選択」に記入した方が36名、「振り返り」が33名と、渡部氏の想定を超える参加者が積極的に挑戦したという結果が示された。

3. グループワーク1(チャレンジして感じたこと)・質疑応答

グループワーク1では、夏の間挑戦した脱炭素ライフスタイルのチャレンジについて、各自でチャレンジした行動や、脱炭素ライフスタイルに対してあると良いサポートについて、グループ内で意見交

換が行われた。その後、グループワークを経て取りまとめられた感想を、各グループの代表者が全体に発表を行った。

- グループ1: 移動について PHV で移動、毎日の移動は充電1回でできる。充電場所が少なく時間もかかるのがデメリット。自転車などのようなモビリティにバッテリーを搭載し、電気自動車の速度制限を 50km/時に制限するなどの対策が必要だという意見
- グループ2: 代替肉について挑戦したが、生産場所などが記載されておらず、購入場所が少ない上に、PR されていないため購入までが大変。また味も良くないと感じた。代替肉ではなく新しい食材として売り出すほうがいいのではないかという意見も出た。通勤や移動におけるクロスバイクの利用は、健康にも良く取り組みやすいとの意見
- グループ3: 太陽光発電設備は蓄電池も含めてお金がかかりすぎる。短期的な効果を得られてコストもかからないという視点で、自宅で豆苗を育てるなどの家庭菜園は取り組みやすいという意見
- グループ5: 自宅に LED ではない証明器具の存在に気づき、今後全て LED にしていく。また二重窓、外壁塗装、屋根塗装などの断熱改修を実施した、あるいは実施予定だという参加者もいた。さらに、自動車通勤から自転車通勤への変更や、余暇として自宅周辺での散歩やハイキングなどは実践しやすいという方も
- グループ6: 消費の観点から、毎週日曜日に近くのスーパーへ徒歩でまとめ買いを実践
- グループ7: ビールの代わりに炭酸水、肉の代わりに魚、更にヴィーガン食に挑戦し、楽しんで取り組めたという意見も。ただし子供は肉やお菓子を食いたいとの感想が出たとのこと。2週間はチャレンジ出来たが、10 年続けることは難しいとの意見

4. 情報提供2「脱炭素チャレンジのふりかえり②」(渡部厚志氏)

レクチャー1に引き続き、渡部氏からグループワーク2で議論するポイントとして、以下の2つが提示された。①「将来はやってみたい」行動と「魅力的でない・取り組みたくない」行動を、地域の様々な人々が取り組むようにするため、どのような課題があるのか。②その課題解消に向けて地域、市民・企業・行政などでどのような変化や取り組みが進むことが望ましいのか。これら2つの論点を踏まえた上で、渡部氏から情報提供として、脱炭素ライフスタイルチャレンジの中で魅力的でない・取り組みたくない行動としてどのような意見が挙げられたのかという点が共有された。(詳しくは、資料「第2回市民会議で出た意見と脱炭素ライフスタイルチャレンジの感想」を参照)

5. グループワーク2

渡部氏からの情報提供を踏まえて、「地域の課題」や「地域に望む変化、取り組むと良いこと」のそれぞれについて各グループで議論を行い、その結果を模造紙にまとめた。各グループで議論の後、参加者は各グループの議論をまとめた模造紙を回覧し、共感できる意見や議論にシールを貼る作業を行った。その後、共感が集まった地域の課題や進めるべき取り組みについて、各グループのファシリテーターが全体発表を行った。

共感が集まった意見

- グループ1: CO₂ 排出・削減のデータの見える化、ヴィーガン料理を提供する店の増加、環境に対する意識や認知を向上が課題。逗子葉山の地域住民は自然を重視しており、脱炭素行動のマインドを持ちやすいのではないかとこの意見

- グループ2: エコマンションやエコ住宅は費用がかかる、アルコールや車の購入を促すCMが多いことが課題。そこで、脱炭素にインパクトのある消費行動に脱炭素ポイントを神奈川 Pay などで付与する。また、気候市民会議を継続的に実施する
- グループ3: 逗子葉山の自然条件を利用して、自宅でミニ風力発電と蓄電を普及させる。自転車発電で発電した分だけ割引可能な発電カフェ。学力水準の高い学校の学生を巻き込むためにアンケートを実施
- グループ5: 坂が多く、EVタクシー、自転車レンタルのポート設置が難しい点が課題。地産地消に関する情報発信を強化するために、サステナブルスマートエリアとしての情報発信、地引網体験学習、地元商店街ポイントカードなどを実施
- グループ6: フリマやヴィーガン食への情報不足という課題があるため、飲食店がヴィーガン料理を提供し、使わなくなった衣服のフリマなどが行われる、脱炭素デーの開催
- グループ7: 食や農に関する取り組みとして、打ち水やグリーンカーテンなどの日本型の取り組み、地域園芸部、ミートレスマンデーなどを実施する

6. 発表と次回にむけての連絡

村上氏から、10月28日の第4回目の会議の内容や目的について説明が行われた。第4回では、今回出たアイデアを深掘りするために、①移動、②エネルギー、③食の生産と消費、④製品・ごみ・シェアリングの4つのテーマについて、専門家などから情報提供が行われる。情報提供を踏まえて、参加者は上記4つのうち2つのテーマについて議論し、さらに逗子・葉山特有のテーマについても話し合う。そして第5回目には、第4回目まで4の議論の結果を共有した上で、最終的に市民から脱炭素のための最終提案が行われる。以上の見通しが、村上氏より提示された。

参加者の1人から、「市民会議の最終的な提案が誰に提出され、どのように活用されるのか」と質問があった。また別の参加者からも、最終的な到達点が理解できていないと質問があった。柳下氏は以下のように回答。

「葉山町と逗子市は温暖化対策に関する2030年までの行動計画を進めており、市民会議の最終提案は何らかの形でそれらの計画に反映されることが期待される。また2050年までの脱炭素化を実現するために、市民主体の行動が必要であるが、そのアイデアを実現する上で協力が不可欠なアクターに提案を行うことや、制度整備の必要性を行政への要望を最終提案に含めても良い。」以上の説明がなされた。

さらに別の参加者から、「提出先は行政、企業、市民のいずれに提案するのか」と質問。柳下氏から、「行政への提出は選択肢の一つだが提出先は未定であり、個別のアクターに要望を提出するのではなく記者発表で世間に問題提起するということも考えられる」との回答がなされた。村上氏からは、「町と市に対しての提出や、社会への情報発信を目的とする、また最終提案の内容は、市民の行動、企業や地域主体との連携、行政の政策に対する要望を含める」との補足があった。

質疑応答の後、次回会議の開始時間について説明が行われ、事後アンケートを実施した。

7. 閉会